磐田市

地形概況

天竜川扇状地の低地、太田川の三角州性低地・磐田原台地・海岸砂堆地からなる。台地面には浅い広い谷が発達し東部の鶴ヶ池、樋ヶ谷沼は閉塞による湖である。今之浦低地は市街地化したが、大沼とともに潟湖の残象で三角州性の低地である。

地質概況

泥岩と砂礫岩の互層を示す小笠累層の上を厚い礫層がおおう磐田原台地が広く、表層には褐色土がのる。礫は天竜川系の組成をもち、三方原台地と対比される。天竜川下流扇状地は礫層、太田川下流は泥層であり、有機質シルト層を含む軟弱地盤となる。

気象概況

年平均気温は推定 15.5℃、年平均降水量が推定 2,000mm、冬は大陸からの季節風が連日吹くことが多く、空気が乾燥して晴天日が続く。降雨は県内の平均より少なく、春から夏季(4 月から 8 月)にかけて全降水量の約半分に達する。冬の季節風が連日吹くことが多い。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日(昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
  県中・西部で被害が大きかった。当地でも見付で全壊 13 戸、半壊 18 戸、中泉で全壊 41 戸、半壊 61 戸、西貝で全壊 19 戸、半壊 32 戸、天竜で全壊 46 戸、半壊 39 戸、磐田で全壊 1 戸、向笠で全壊 125 戸、半壊 57 戸、田原で全壊 76 戸、半壊 53 戸、御厨で全壊 49 戸、半壊 12 戸、南御厨で全壊 110 戸、半壊約 50 戸、於保で全壊 45 戸、半壊約 45 戸、長野で全壊 35 戸、半壊 108 戸を生じた。大藤では全半壊ともなかった。また岩田・向笠・田原・長野などで地割れや田から泥砂と共に水が噴出した記録が多い。各地の震度は下大之郷・東新屋・新出・新貝・玉越・田原・笠梅で 7、上岡田・中大原・三ヶ野で 6～7、浜部・笠西・向笠竹之内原・前野神明で 6、鎌田・岩井・笠梅原・匂坂上・権現町・天竜で 5～6、万正寺・寺谷新田・西北浦・元天神・狐塚・二番町・中央町・東町で 5 となっている。
- 1891 年 10 月 28 日（明治 24 年）濃尾地震 M=8.0
  東海道筋見附町より浜松町に到る間諸処に破損有り。遠江で、家屋全壊 32 戸、半壊 31 戸、道路破損 19 個所、橋梁損落 1 個所、堤防崩壊 24 個所。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
  全県下で被害が大きかった。当地では見付宿で 3 分位潰れ、三本松でもかなりの家が潰れ、境松で 23 戸、下前野、保六島近辺は残らず全壊した。また中泉では陣屋が潰れその他寺院を含め東町で全壊 18 戸、半壊 20 戸、西町で全壊 20 戸、半壊 29 戸となっている。各地の震度は下前野・保六島で 7、見付宿・三本松・境松・中泉で 6 であった。
- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震 M=8.4
  全県下に被害を受けた。当地でも午下刻に大地震があって、見付町の往環通・町裏

共潰家多数が生じ、残ったものも大部分損傷したという。

災害事例 津波

- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震津波
  全県沿岸で被害が大きかった。当地の津波の高さは 3m 程度とされている。

災害事例 台風

- 1974 年 7 月 7 日（昭和 49 年）台風 8 号(七夕豪雨)
  全県下で被害があった。当地でも負傷者 3 人、全壊 4 戸半壊 15 戸、流失 8 戸、床上浸水 312 戸、床下浸水 529 戸、田畑冠水 659.1ha、決壊道路 8 個所、橋梁 3 個所、堤防 6 個所、山崩 2 個所の被害があった。
- 1910 年 8 月 9 日（明治 43 年）
  全県下特に中・西部で被害が大きかった。当地でも日雨量は、見付で 340mm、御厨で 335mm に達し、堤防が決壊し河川が氾濫、浸水家屋・冠水耕地など被害が大きかった。
- 1828 年 8 月 10 日（文政 11 年）
  大雨で洪水となり、堤防数個所が切れた。新屋林の家、数戸が押し流される。

災害事例 豪雨

- 1975 年 10 月 8 日（昭和 50 年）
  西部沿岸で 200～300mm の豪雨となり、死者 1 人、負傷者 1 人、浸水家屋床上 743 戸、床下 1,517 戸の被害が出た。また鉄道・道路・通信施設にも被害を生じた。